

働く女性のリアルストーリー

おしえて！ その働き方

Vol.22

「haruを使っている方の、もっと踏み込んだ話が聞きたい!」とはじまったこのコーナー。今回もステキなお話がたくさん!



森 美咲さま (29歳 会社員) haru 愛用歴 4年 ※取材当時

えのことにありがとうを言ってもらえると嬉しいから。周りのフオーもあつて赤ちゃんを連れて仕事も頑張れているので、小さなことでも、親にも会社の人にもちゃんと、ありがとうは伝えるように心がけています。

攻めの仕事も、してみたい

今年(2022年)の1月に、全国の女性鉄筋工・技能者を対象にした、初のWEB会議がありました。女性がもっと建築業で働けるように、現場で働くことの良いこと、嫌なこと、いろんな意見を出し合っただけです。参加者の女性が「いつか女性だけで現場できるようにになりたい」と話されていて、素敵だなんて思っただけです。

建築業は力仕事だけど、女性でも活躍してる人はたくさんいます。だから、WEB会議に参加して、「女性に建築業をもっと知ってもらって、働きやすい環境を作りたい」って思うようになりました。きつとこの夢は、まだ誰も実現できていないと思うんです。だからこそ、実現させてみたいです!

妊娠期間は、どうしても守りの姿勢での働き方になっていましたが、これからは上手に息抜きをしながら、攻めの仕事もしていきたいですね。

※鉄筋工とは、家などを建てる際の「骨組み」となる鉄筋を作るお仕事です。実際の作業は、鉄の棒を針金のようなもので結束していきます!

大変な時もいつか必ず懐かしいと思える。 息抜きしつつ人生楽しみたいです。



パソコンに向かっているときは一瞬、ミルクをあげる優しい母の顔になる森さま



赤ちゃんを連れてお仕事に励む森さま

まずは自分をご機嫌にすること。そして、感謝の気持ちを伝えることを私も大切にしたいと思いました。



取材：企画担当 平田

ただいま募集!

“私”らしく生きたい、あなたへ。

haruでは定期的にお客様にお会いして、「働くこと」を中心にちょっとしたことへの気づき、生活のひと工夫や、悩みなど毎日の暮らしで悩んでいることを取材しています。そうだよねという共感や、ひとりじゃないと思える安心感をこのコーナーでお届けできたらうれしいです。ご興味のある方はぜひ、haruお客様センターまでご連絡ください! haruお客様センター ☎: info_haru@haru-shop.jp(メール24時間受付・メール対応時間/平日9時~19時)

生後1ヶ月半。赤ちゃん連れで職場復帰。

父が代表を務めている建設会社で、事務と経理を担当しています。子供は7歳の息子と5ヶ月の赤ちゃん。今は赤ちゃんと一緒に出勤しています。働き始めてもう11年。責任のある仕事も多く、毎日忙しく、大変です。それでも、仕事が好きですし、何より自分

にしかできない仕事も多いから、早く元の生活に戻りたくて。でも、保育園は見つからず……。1人目の時も2人目も子連れで職場に復帰。周りのサポートがあつてこそなので支えてくれる家族や上司、同じ事務の子には感謝しかありません。

きっかけは夫からの一言

今でこそ仕事も家事も育児も欲張って頑張っているんですけど、最初は上手くいきませんでした。3年ぐらい前までは、夜何かが残っているのが嫌で、仕事から帰ったらイライラしながら家事を頑張つてしまっていました。「いい!私がやるから!」と夫に強く当たったりして……。

すると、夫から「機嫌悪くなつてまで家事しないでほしい、俺だつているんだから、休んでニッコリして」と言われました。そのとき初めて、私はそんなにイライラしていませんだと気づいたんです。夫がそう言つてく

るってことはきつと、子供にも同じようにイライラしていたんだろうなと思つて反省しました。

その言葉がきっかけで、夫とも話し合つて無理をしてまで家事をするのはやめようと思ったんです。子供はやっぱりママがご機嫌な方が良いですし、人に当たつて被害者を出さないためにも(笑)。まずは、自分を「ご機嫌にしようと思うようになりました。」

思い切つて休む。そして、感謝する。

私の場合、自分がイライラしているときや心が疲れているときのサインは「ありがとう」が言えなくなることなんです。頭ではありがとうを言つた方がいいつてわかっているのに、言えないとき。

そんなときは、ひとりの時間を作つて、とにかく休みます。子供たちが寝たあとに、本読んだりドラマ見たり、ぼーっとしたり、すぐに寝に行つたりして。

その時間を作るために、ほんとは片付けた洗い物も「今日やらなくても明日でいいや」と思つて、意識して手を抜くようにしました。そうして家事を溜めてしまつても、夫がサツとやつてくれて、子供も手伝つてくれます。だからこそ、やつてくれたら「ありがとう」つて伝えるようにしています。私自身、毎日ご飯作るとか、洗濯するとか、あたりま